

2021年度の予算編成にあたって 一般会計繰入を増額し、政令市一高い国保料の引き下げを

「熊本市国保をよくする会」と一緒に、「国保・介護保険制度改善と新年度予算編成についての要望書」を提出



「熊本市国保をよくする会」では、新型コロナ禍の中、国民健康保険料の減免拡充や運用の改善、医療費負担の軽減、傷病手当支給の拡充、介護保険料の負担軽減・減免制度の利用促進などに取り組んできました。熊本市で、2021年度予算編成がすすむ中、国保・介護の負担軽減等を要望しました。

国保の一般会計繰入を減らし、負担軽減に背を向ける市長

熊本市は、大西市長になって、国保への一般会計繰入（赤字補てん分）を減らし続けてきました。

今や、前市長の時代の1/4です。新年度は一般会計繰入を増額し、保険料を引き下げるべきです。

政令市で2番目に高い介護保険料も引き下げを

次年度は、3年に一度保険料が見直される新規計画の始まる初年度です。高齢化が年々進み、給付費が増え、計画見直しの度に、保険料

が引き上げに。1月以降に保険料見通しが示されますが、引上げは必至です。政令市で2番目に高い保険料は引下げるべきです

「年をどうやって越そうか・・・」、負担軽減の声は切実

年金生活者や個人事業主等の加入が多い国民健康保険。年金が減る中、不況に新型コロナが直撃し、例年以上に厳しい年の瀬になっています。

国民健康保険も、介護保険も、負担軽減は切実な声です。

(要望事項)

- 1、2021年度の予算編成について、法定外の一般繰入金を増やし、政令市で一番高い保険料を引き下げてください。
- 2、被保険者資格証明書及び短期被保険証の発行をやめて、国民皆保険制度を守る立場から改善を図り、全ての被保険者に正規の保険証を速やかに交付を。
- 3、所得の有無に関係無く加算される均等割が保険料を引き上げ、所得の2割もが保険料となり、払いたくても払えない保険料となっています。所得のない子ども（18歳未満）の均等割を廃止し、高い保険料の軽減をしてください。
- 4、新型コロナにかかる傷病手当を事業主も受けられるよう、条例改正を。
- 5、前年度の所得が0もしくはマイナスの場合でも、コロナ減免が適用できるように制度改善してください。
- 6、減免制度を広く知らせてください。

【控室から】 子どもの成長に学ぶ

上野 みえこ



昨年末に生まれた孫が、今月で満1歳を迎えました。親の庇護なしには何もできない新生児から、一人で立って歩けるようにまでなる、この1年間の成長は、人生の中で、人が一番成長する時かもしれないかもしれません。母乳から離乳食へ、抱かれるだけから自分でハイハイ、つかまり立ちへ。最初の一步には、見ている大人も感動です。まわりのさまざまなものに関心を持ち、光や動き、匂いや音・味など、五感を120%はたらかせて、いろんなことにチャレンジします。

そんな子どもの自発的な学習、成長・発達する姿には、私たち大人も、学ぶことが本当に多いと思います。社会が目まぐるしく変わる中で、私たち大人も学ぶことを忘れず、常に謙虚であれたらと願います。

複雑な社会情勢を反映し、日々子どもに関わる事件が相次いで発生、格差と貧困や虐待、そして過度な競争の教育など、子どもたちを取り巻く状況は、決して穏やかなものではありません。

すべての子どもたちが豊かに成長できる社会のあり様が求められます。その実現のために力を尽くしていきたいと、思い新たにしています。

日本共産党 市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1 3階
発行：日本共産党熊本市議団
上野みえこ なすまだか

NO. 1214
2018年12月6日号
電話 328-2656
FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

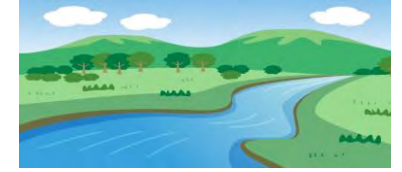
HP：共産党 熊本市議団



検索



立野ダム建設は中止し、 水田の保全を採用した白川の流域治水を！



11月27日、「立野ダムによらない自然と生活を守る会」「ダムによらない治水・利水を考える県議の会」「立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会」「白川の安全と立野ダムを考える白川流域住民連絡会」の4団体で、国土交通省と熊本県に、白川の流域治水では立野ダム建設は中止し、水田の保全を採用することを求める「白川の流域治水に関する要請書」を提出しました。



9月30日に「第1回 白川・緑川水系流域治水協議会」が開催されました。白川・緑川の流域治水について協議する場です。以下の3点を要望しました。

【要望事項】

1. 白川の流域治水協議会のメンバーに、流域住民や専門家、学識者などをはじめとする流域の人材も加えること
2. 今回の流域治水協議会でも、国土交通省が2012年「立野ダム事業検証」で立野ダムを検証した際の14の治水対策案のすべてを検討すること
3. 白川の流域治水では立野ダム建設を中止し、より早く、より安く、より確実に白川の洪水ピーク流量を下げる事ができる水田の保全を採用すること

「白川・緑川流域治水協議会」メンバーに、 流域住民・専門家・学識経験者の参加を

9月30日に第1回が開催された「白川・緑川水系流域治水協議会」には、流域のあらゆる力を集めて豪雨災害を防ぐというのが流域治水の考え方であるにもかかわらず、メンバーは流域市町村長と熊本県職員、国土交通省職員だけで、流域の住民や専門家、学識者などは含まれていません。

流域のあらゆる力を集めるというのなら、流域住民をはじめ、流域の専門家・学識経験者等もメンバーに加えるべきです。

「水田の保全」(案)も除外せず、検討すべき

田んぼの貯水機能を活用した「水田の保全」(案)は、国土交通省が今年7月6日に公表した流域治水の具体策にあり、球磨川の流域治水でも打ち出されてきました。ところが、国土交通省HPの「第1回 白川・緑川水系流域治水協議会」の資料では、「水田の保全」(案)は除外されています。

国土交通省は、2012年の「立野ダム事業検証」で、立野ダム建設以外にも14の治水対策案を検討していました。「中流域遊水地」、「黒川遊水地(地役権方式)」、「雨水貯留施設+雨水浸透施設+水田の保全」、「輪中堤+遊水機能を有する土地の保全」、「雨水貯留施設+雨水浸透施設+水田の保全+土地利用規制」など、流域治水の考え方に基づき、具体的な案として示していました。

8年前に、国土交通省自らが提示していた遊水地等の流域治水施設を活用した治水対策案を、今行っている「白川・緑川流域治水協議会」でも検討すべきです。

費用も安く、効果の大きい水田活用の治水対策

「水田を活用した治水対策案」は、流域の水田55平方キロに20cm雨水をため込むように畦を高くするだけで、約1100万m³の容量があり、立野ダムの総貯水量1000万m³を上回る貯水量です。

しかも、「水田の保全」による治水対策は、立野ダム建設と比べ、より早く、より安く、より確実に白川の洪水ピーク流量を下げる事ができます。

水田活用の治水対策は「地下水涵養」にも効果あり

白川中流域の水田は「ざる田」と言われ、高い浸透能力を持つため、水害防止効果があるだけでなく、熊本の地下水涵養に大きな効果があります。かけがえのない阿蘇の自然を壊し、想定外の豪雨には対応できない危険な立野ダム建設は直ちに中止し、水田等を活用した安全な治水対策をすすめていくべきです。そのためにも、流域住民の声をしっかり受け止めた議論が必要です。

(流域治水を紹介するパンフレットができました)

